

平成 29 年度

えたじま向上委員会

成果報告書

江田島を向上させる
3つのチャレンジ!!!

Etajima
Improvement
Committee



江田島市

www.city.etajima.hiroshima.jp

ま 向 上 委 員 会



えたじま向上委員会

とは？

平成29年度に発足した江田島市独自の委員会。

テーマごと3班に分かれて、
あらゆる視点でまちに輝きを届けます。

「江田島の地域づくりをしてみたいけど、何をすればいいかわからない」。そんな夢のある人たちが集まり、小さな願いや希望をカタチにする場所。それが【えたじま向上委員会】です。平成29年6月、江田島市民や出身者が、地域活性化を図るための3つのテーマに沿って具体的な活動をしていく場として立ち上げました。この委員会の原動力は、胸にそっと秘めた「地域の現状への危機感」、好奇心をくすぐる「地域づくりへの興味」など、江田島市を愛する気持ち。初年度の活動報告として、テーマごとの取り組みや成果をご紹介します。

地域づくりを
手がけてみよう。

え た じ



江田島の魅力発信

よく知られていない江田島市のことを市外の人に宣伝しよう！

テーマ

1

子どもの遊び場づくり

放課後に行き場のない子どもたちの遊び場を考えてみよう！

テーマ

2

隣近所の「チカラ」づくり

住民同士で地域の困りごとを助け合う方法を考えてみよう！

テーマ

3

平成29年度のテーマ

メンバー紹介



堀川直子さん

自他ともに認める江田島ファンでザリガニ計画実行委員会幹事長。広島市食農コーディネーター。



五島真之介さん

NHKや民放でディレクター・カメラマンとして多数の番組を制作。映像制作会社の代表。



田中昭彦さん

大柿町柿浦生まれ。2年前に定年退職し、デザイン事務所を設立。大柿高校の卒業生でもある。



原田健二さん

社会福祉法人広島市手をつなぐ育成会職員。若者自立支援のNPO法人でも活躍している。



胡子雅信さん

大柿町深江生まれ。平成13年に東京からUターンし、島の魅力再発見に取り組んでいる。

【テーマ】

江田島の魅力発信

◎よく知られていない江田島のことを市外の人に宣伝しよう！

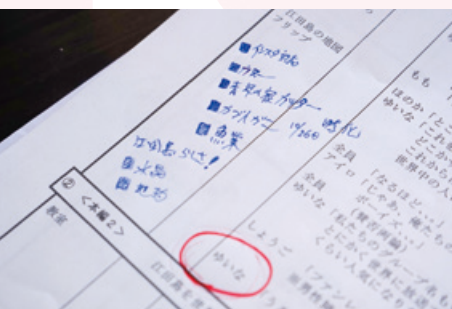
グループ「ザリガニ放送局」

メンバー 5名

テーマに対して課題に感じていたこと

コレといった強みがなく、情報に統一感がない

魅力的な取り組みや話題性の高い店はあるものの、個々の情報発信になっており、島全体としての統一感がないのが残念。また、江田島といえば「コレ！」という強みがなく、広島市からの観光やレジャー来訪も4割にとどまっている。



考察

課題解決に向けて

江田島の魅力を発信するインターネット番組を制作し、動画共有サービス『YouTube』で配信する！

実践

えたじま向上のための取り組み

『ザリガニ放送局』のオリジナル番組で魅力発信！



ザリガニ放送局
名前の由来は
江田島のカタチ！



取材中～



スマホで
アクセス!!



YouTube 動画「えたじまザリガニ放送局パイロット版」



https://youtu.be/WdBE_i59NfY

「魅力発信」といっても、改めて紹介したい江田島の魅力を発掘し、どのような手段で発信するかをまず考えなければなりません。メンバー5人全員で何を軸に発信していくかを話し合った結果「すべてを詰め込んでみよう！」という答えに辿り着きました。江田島をPRするインターネット番組のパイロット版（Ⅱ試験版）を制作することに決定。『ザリガニ放送局』を立ち上げ、カメラマンとしてテレビ局に長年勤務していたメンバーを中心に独自の番組を制作しました。内容は、大柿高校の生徒による島の魅力レポートや、高齢者のインスタグラム挑戦ドキュメント、明岳周作市長をゲストに迎え「江田島の魅力を世界に発信」をテーマに行った高校生との討論会など多彩です。「この番組の主演は江田島市民です。市民参加型にすることによって、自分たちで自分のまちをPRする喜びを感じてもらえれば嬉しいなと思いました」とリーダーの田中さん。さらに、発信手段として目をつけたのが、SNSのチカラ。子どもから大人まで幅広いユーザーがいるネットメディアを活用しようと、完成した番組を『YouTube』にアップし、世界中の人が閲覧できるようにしました。



番組のゲストとして、明岳周作江田島市長（愛称はしゅうちゃん！）も出演し高校生と討論会も。



『沖山工房』で、カキ殻を使用した陶芸「江田島焼」を体験！ ろくろを使った茶碗作りに初挑戦。



廃校となった旧・沖保育園を再生させる広島県プロジェクト「廃校リノベーション」を取材。



番組の進行は大柿高校の学生。江田島の魅力を発信するために、レポーターとなって島を駆け巡る。



向井雅文さん

グリーンファームおきみに勤務し、農業に取り組む。SUPのインストラクターとしても活動中。



美濃英俊さん

江田島市観光情報サイト「江田島へ行こう!」を運営し、海あそびを通じて島の魅力を発信。



森山直樹さん

自宅の竹林を活用した竹プロジェクトを発足。夢は江田島での【ろくむし】世界大会開催!

子どもの遊び場づくり

◎ 放課後に行き場のない子どもたちの遊び場を考えてみよう!

テーマに対して課題に感じていたこと

ゲームばかりの子どもたち。遊び方知ってる?

ひと昔前はどこでもよく見かけていた子どもたちが公園で走り回る姿。最近、よく聞くのはゲームの話ばかりで、なんだかさみしい。自分たちが子どもだった頃にみんなでやっていたそと遊びをまた流行らせて、あの頃のような活気を取り戻したい!



考察

課題解決に向けて

遊べる場所と昔遊びの方法を記した遊び場マップを作り、場所と方法を同時に提案しよう!

実践

えたじま向上のための取り組み

『えたじまパークス』で島内の遊び場を見える化！

■ ホームページ「えたじま PARKS」



<https://etajimaparks.com/>



「小中大元」の
遊んでみた動画も
アップロード！

江田島の
公園レポート！



大人も一緒に遊んで
親子の仲良し度 UP！



スマホで
アクセス!!



3

人のメンバーが日々気にかけていたこと。それは、外で遊んでいる子どもたちをあまり見かけないことでした。少子化の影響もあるとは思いつつも、やっぱり少ない。小学生の子どもを持つ親に聞けば、ゲームばかりやっているとのこと。

自分たちが子どもの頃やっていた遊びって、めちゃくちゃ楽しくて、日が暮れるまでやっていたよなあ、と。ふとメンバーの頭によぎったのは「遊び方を知らないのでは？」というひとつの疑問でした。「僕たちが昔遊んでいた『ろくむし』や【小中大元】って、誰でもできて簡単。それに、大人も子どもと一緒にできるし、コミュニケーションのひとつになるのではと思いました」とリーダーの森山さん。まず、子どもたちが安全に遊べる場所がどのくらいあるのか実態調査をしてみようと、島内74箇所の公園をリサーチ。併せて、子どもを持つお母さんたちに公園に対する要望や遊び方についてアンケートも実施しました。ホームページ『えたじまパークス』を制作し、昔遊びを紹介する動画も閲覧できるように。また、大人と子どもと一緒に遊べる機会を作ろうと、島内で開催されるイベントにも参加するなど、遊びを通じた活動を行っています。



子どもやお母さんの理想目線で取材。広さや遊具の種類、設備のほか、整備状況なども細かくチェック。



近所の人しか知らない公園も広く紹介することで、それぞれの公園の魅力を再発見することに。



調査中の様子。大人目線だけでなく、子ども目線で実際に遊んでみることも大切なリサーチ項目。



『えたじまパークス』では、公園の場所のほか、トイレや駐車場、水飲み場の有無も知ることができる。



志水友香さん

江田島町にある温活サロン・メディカルアロマ美庵果代表。健康をキーワードに美を追求。



坂田真一郎さん

みんなのまとめ役としてグループを支える。申請書類関係はおまかせ！ みんなのお父さんの存在。



河賀恵子さん

赤ちゃんとお母さんから学ぶ「いのちの授業」を行う赤ちゃん先生として島内外で活動。



沖田昭子さん

古民館『りん』の運営代表を務める。結婚を機に島を離れていたが、約50年ぶりにUターン。

【テーマ】 隣近所の「チカラ」づくり

◎住民同士で地域の困りごとを助け合う方法を考えてみよう！

グループ——江田島ハーモニーズ

メンバー——4名

テーマに対して課題に感じていたこと

近所の住民が集まるきっかけや場所がない

共働き世帯が増え、現役世代は仕事があるので近所付き合いの機会が少ない。また、高齢者が集まってお茶ができる場所もない。このままでは人と人との関係も薄くなり、こころの健康を保てなくなってしまうのではと懸念。人が集まれる場所やコトが必要！



考察

課題解決に向けて

地域の古民家を拠点として活用し、
地元の人が気軽に参加できるイベントを開催する！

実践

えたじま向上のための取り組み

誰でも気軽に立ち寄れる居場所を作ろう！



f 隣近所の「チカラ」づくりチームのFacebookページ
江田島向上委員会繋がりプロジェクト。
Cocila yell



スマホで
アクセス!!



<https://www.facebook.com/cocilayell/>



みんなが楽しく
立ち寄れる場所に



2 017年10月、中町公民館隣にオープンした古民館「りん」。温もりあるカフェのような古民家、学びとサロンが宿る知的な公民館。ここでは、ふたつの特徴を併せ持った新しい古民家の活用方法を提案しています。その名も「古民館」です。この中町地区には、お年寄りが徒歩でやって来て、のんびり気ままに過ごせる場所がありません。「結婚を機に江田島を離れて数十年。2年前、73歳のときにこのまちへ戻ってきました。老後を楽しく過ごそうと思っていました。高齢者が集まってお茶をするところもないんです。どうやったら楽しく過ごせるだろうと考えたことが、この場所に古民館「りん」をオープンするきっかけとなりました」とリーダーの沖田さん。他愛もない話や懐かしい昔話は元気の源に。来週も来ようと思えば、毎日が楽しくなる。住民の笑顔は地域に明るさをもたらします。また、温活やメディカルアロマ講座といった健康をキーワードにした体験型イベントも開催。「楽しく健康に」をモットーに4月から様々な講座を開講予定です。さらに、隣近所のチカラづくりの一環として「中町ロードイルミネーション」も実施するなど、活動内容は多岐にわたります。



『りん』のオープンは毎週木曜日。10時～15時で出入りは自由。お茶代200円で誰でも利用できる。



20代から80代まであらゆる世代が参加した「メディカルアロマ講座」。誰もが楽しめる講座を予定。



何か心配ごとがあれば左手に黄色いものを巻く「黄色いハンカチ行動」を屋のイルミネーションとして提案。



黄色い布と手作りのチラシを配布。中町プロジェクトとしてメンバー全員でひとつひとつ袋に詰めたもの。

ゲスト・スピーカー

PiNECoNeS

藤井ちえさん



自らが暮らす大竹をもっと楽しいまちにしたいと、2011年からイベントを企画。6人の女性メンバーで有限責任事業組合「PiNECoNeS (パインコーネズ)」を設立。平成29年にはあしたのまち・くらしづくり活動賞を受賞。

NPO法人ひろしまジン大学

平尾順平さん



2010年に立ち上げた「ひろしまジン大学」の学長。中山間地域での生活に学ぶ研修をはじめ、外国人観光客に対する市民主体のガイドの実施、中山間地域と都市部を繋ぐマルシェなど、新しい広島づくりを担う。

えたじま向上委員会 成果報告会

3/17(土)に開催された「えたじま地域づくり実践者報告会」で成果報告！

江田島市内では様々なグループが地域づくりに取り組んでいます。地域づくり実践者による報告会が行われ、えたじま向上委員会の3つのグループも活動内容を報告してきました。



活発な意見交換を行うことができ、参加者の交流が深まりました。



プレゼンテーションだけではなくディスカッションの時間を設けました。



「これだけイキイキとした活動が集まる地域は県内でも珍しい」とゲスト。



当日はスタッフ合わせて70名以上が集まりました。

▼ ゲストコメント

メンバーに情報発信の専門家がいるにも関わらず、地元の人を巻き込んだ参加型の仕組みで進めている点に感心しました。高校生にとっても良い経験になったはず。どんどん企画・運営の側に入ってもらい、ザリガニ放送局の「仲間」を増やしていきましょう！

Hirao's
Comment



地元の人々と一緒に動く「巻き込み力」が素晴らしかったです！お年寄りの生きがいづくりや、高校生がプロと接することで、将来の職業選択に良い影響を与える取り組みだと思います。また、地域資源の見直しなど様々な問題が一気に解決そうですね。

Fujii's
Comment



グループリーダー
田中昭彦さん

江田島出身者にもSNSのチカラを使って、日本中そして世界中に、この島の魅力を発信する気持ちを持ってもらえるといいですね。

「江田島にはレベルの高い発信をしている人がたくさんいます。しかし、現状は『点』での発信が多く、それを『線』にして、さらに『面』にすることがベストだと思います。私たちが立ち上げた『ザリガニ放送局』ですが、今後は江田島で暮らす人たちが自身が続けていけるような仕組みに変え、個々が美味しいものや珍しいものを発信する場として活用してもらえれば嬉しいです。また、島外で暮らす

『ザリガニ放送局』を活用して
個々が感じる島の魅力を発信

活動を通じて

グループ「ザリガニ放送局」
江田島の魅力発信



成果報告会発表資料抜粋。



▼ ゲストコメント

「補助金に頼らず継続する」という姿勢に共感しました。公園の調査や子育て世代へのヒアリングもとても丁寧で、HPに整理された公園はとても貴重なデータベースだと思います。色々なイベントに「便乗する」、遊び道具を「シェアする」という考えも良いですね。

Hirao's
Comment



公園のトイレや駐車場情報はありがたい。江田島に住むママは羨ましいなあと感じました。補助金に頼りすぎず、資金を自ら生み出すことで活動が活性化すると思います。補助金以外にも「クラウドファンディング」での資金調達方法も検討してはいかがでしょうか？

Fujii's
Comment



グループリーダー
森山直樹さん

子どもの頃に毎日やってきた外遊び。時代は変わっても、きつと子どもたちは面白いはず。夢は「ろくむし」の世界大会をこの江田島市で開催することです。

「小学校の数も減り、放課後に学校まで遊びに来れない子どもたちが増えたのも事実です。だけど、子どもたちには元氣よく外で遊んでほしい。僕たちの活動がきっかけになって、ひとりでも多くの子どもが外で遊ぶ機会が増えれば嬉しいですね。また、今後は島内で開催されるイベントにも積極的に参加して、外遊びを普及する活動が続けていこうと思います。自分たちが

夢は「ろくむし」の世界大会
今も昔も外遊びは楽しいぞ！

活動を通じて

グループ E M A

子どもの遊び場づくり

それらを踏まえての今後

みんなが江田島の公園情報を出るホームページを作った！
今後の活動に必要な情報と道具を揃えた！

その後の活動
公園の調査やヒアリング、公園の整備や遊具の設置など、様々な活動を行っています。

これからの活動方針

「公園の調査やヒアリング、公園の整備や遊具の設置など、様々な活動を行っています。また、公園の調査やヒアリング、公園の整備や遊具の設置など、様々な活動を行っています。」

実際に昔の遊びをしてみた

公園の調査やヒアリング、公園の整備や遊具の設置など、様々な活動を行っています。



成果報告会発表資料抜粋。

▼ ゲストコメント

「古民館」や「cocila-yell」というネーミングが良いですね。ひろしまジン大学でも「県民が先生」となり、県内全域を「キャンパス」に見立てて活動しています。古民館「りん」を中心に、地元の人々が地元の良さを改めて知る機会になっていくと良いですね。

Hirao's
Comment



一見バラバラの活動のような取り組みですが、「古民館りん」で緩やかにつながっていてとても素敵でした。情報発信が課題と発表されていましたが、ぜひ「ザリガニ放送局」と連携してPRしてください！素晴らしいコラボレーションを楽しみにしていますよ。

Fujii's
Comment



古民館「りん」館長
沖田昭子さん

よ。みんなで作ったこの場所を守り続けるためにも、活動に彩りを添えてくれる次世代のスタッフと協力して、より魅力的な場所づくりを続けていきたいと思っています。

「りん」に遊びに来てくれる方はひとり暮らしのお年寄りも多く『ここに来るまでしばらく一言もしゃべってなかったわ』という方もたくさんいます。昔話でもお孫さんのことでも、どんなことでも誰かと話すことって大切だと思うんです。とっても小さな空間ですが、みんなでお茶を飲んだり、ごはんを食べたり、そんな日常の楽しみが私自身も元気の源になっています。

地域の暮らしを明るくする
この空間をずっと守り続けたい

活動を通じて

グループ 江田島ハーモニーズ

隣近所の「チカラ」づくり

古民館「りん」プロジェクト誕生

コンセプト
古民館を利用したカフェ
喫茶と読書室
古民館のカフェ・読書室の運営
古民館の歴史・文化の発信
「りん」独自の文化活動



江田島ハーモニーズは異なる事業家からの出発



成果報告会発表資料抜粋。

“江田島市をもっとステキなまちにしたい！”

募集

平成 30 年度

あなたの想いを
魅力的なカタチに
してみませんか？

江田島市協働のまちづくり 地域提案型活動支援事業

魅力溢れるまちを築くためには、地域の特性を生かしたまちづくりや、地域を知り地域に愛着を持つ市民によるまちづくりが必要です。「協働のまちづくり」とは、行政だけでなく、行政と市民が一緒になって積極的にまちづくりに参画し行動していく仕組みのこと。市民をはじめ、自治会、まちづくり協議会、各種団体などの地縁組織、NPO・ボランティアなどの市民活動団体、企業などの担い手がそれぞれの特性を発揮できる場所だと考えています。

江田島市では、市民協働の多様な担い手が、地域のニーズや課題を把握し、自分たちの特性を活かした主体的な活動を支援する補助金制度があります。地域に密着した視点で、江田島市をキラリと輝かせる様々なサービスを提案してください！

支援対象

2パターンの申請区分枠を設置。それぞれの団体があてはまる申請区分枠にてご応募ください。

NPO・市民活動団体、企業などが対象！

“市民活動団体支援”

既存活動の拡充や新規活動の立ち上げを目的とし、その内容が地域課題の解決や江田島市のまちの魅力向上につながる活動を支援。

自治会・まちづくり協議会などが対象！

“住民自治団体支援”

自治会およびまちづくり協議会が取り組む、地域課題の解決や公共サービスの充実につながる活動や地域資源を活かした地域の発展や魅力向上につながる活動を支援。

応募要項

江田島市の審査によって
決定します！

江田島市内での
活動である

5人以上の
グループである

メンバーの過半数が江田島市民であること
(または団体の所在地が江田島市にあること)

同じ活動で国や県等の
他の補助金を受けていないこと

1団体あたり
1事業までのエントリー

1事業につき30万円が
補助限度額

応募
受付

2018年

5月1日(火)ー5月31日(木)17時まで

応募先

江田島市 市民生活部 地域支援課

電話 0823-43-1637

応募後、書類審査、審査会による審査を経て、6月中旬に補助金を交付する団体を決定します。応募のお問い合わせは市民生活部 地域支援課まで。

——— 本冊子についてのお問い合わせは ———

江田島市 企画部 企画振興課 〒737-2297 広島県江田島市大柿町大原505番地

電話 0823-43-1630 Fax 0823-57-4433 E-mail kikaku@city.etajima.hiroshima.jp